

科目名	法学入門			ナンバリング	GEN211	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	菅野昌史	担当教員					

授業の概要	この講義では、日本の「法システム」の基礎的知識とともに、それを踏まえた上で、現実の社会の中で、そのシステムがどのように作動しているのか、また、そうした実態がどのような要因によって生みだされているのかについて解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の法システムの基本的制度について説明することができる。 法システムが果たす役割について、具体的な事例とともに説明することができる。 日本の法システムについて、その作動の実態について分析することができる。 上記の分析結果を、レポートにまとめることができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業の進行に関わらず、テキストを入手次第、できるだけ早い段階で、全体を一度ざっと読んでおく。その上で、授業の該当箇所を熟読し、あらかじめ疑問をもって授業に臨む。授業中には、その疑問は解決されたのか、また、あらたな疑問はないかを意識ながら話を聞き、随時メモをとるようにする。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 日本の法システムの基本的制度について、大きな間違いなく説明することができる。 法システムが果たす役割について、具体的な事例とともに説明することができる。 日本の法システムについて、その作動の実態について分析することができる。 上記の分析結果を、いくつかのエビデンスを示してレポートにまとめることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 日本の法システムの基本的制度について、ほぼ完璧に説明することができる。 日本の法システムについて、その成り立ちや社会の中での作動の実態を踏まえ、批判的に分析することができる。 上記の分析結果を、十分なエビデンスを示してレポートにまとめることができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○			○		70%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			10%
出席							加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 毎回の授業で提出してもらったアクションペーパーについては、次の時間にいくつかを紹介しコメントする。 授業に関する質問や相談には随時応じる。 最終評価に関しては学生からの要請があれば、その根拠を示し、説明する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	授業の進め方、勉強の方法について説明する。	
	第2回	立法過程と行政過程①	法律が誰によって、どのようなプロセスで作られているのかについて解説する。	テキストUNIT1
	第3回	立法過程と行政過程②	法律が行政によってどのように運用されているのかについて解説する。	テキストUNIT2
	第4回	立法過程と行政過程③	市民は地方自治にどのように参加できるのかについて解説する。	テキストUNIT3
	第5回	法律のプロフェッショナル①	法曹のうち、弁護士がどのような活動をしているのかについて解説する。	テキストUNIT5
	第6回	法律のプロフェッショナル②	法曹のうち、検察官がどのような活動をしているのかについて解説する。	テキストUNIT7
	第7回	法律のプロフェッショナル③	法曹のうち、裁判官がどのような活動をしているのかについて解説する。	テキストUNIT8
	第8回	法律のプロフェッショナル④	法曹三者以外の法律のプロフェッショナルはどのような活動をしているのかについて解説する。	テキストUNIT6
	第9回	裁判所	日本の裁判所がどのように構成されているのかについて解説する。	テキストUNIT9
	第10回	民事紛争過程①	裁判以外の紛争処理の方法について解説する。	テキストUNIT10
	第11回	民事紛争過程②	民事訴訟の構造、それが果たしている機能について解説する。	テキストUNIT11
	第12回	民事紛争過程③	行政訴訟制度の概要、その問題点について解説する。	テキストUNIT12
	第13回	犯罪の処理過程①	犯罪が認知された場合の処理過程について解説する。	テキストUNIT13
	第14回	犯罪の処理過程②	刑事手続がどのように変わりつつあるのかについて解説する。	テキストUNIT14
	第15回	全体のまとめ	これまでの授業内容の復習とレポート作成を行う。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方	基本的に以下の順序で進める。最初に、前回の授業に関して出された質問や要望に対する応答、その後、講義を行い、最後に、その日の授業内容に関する小テストへの解答及びコメントの記入をしてもらう。			
授業外学習の指示	授業の該当箇所を熟読し、あらかじめ疑問をもって授業に臨む。授業中に配布された資料を中心に授業の内容を復習する。不明な点は必ず教員に質問する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	宮澤節生・武蔵勝宏・上石圭一・菅野昌史・大塚浩・平山真理(2018)『ブリッジブック 法システム入門－法社会的アプローチ[第4版]』信山社、2,700円 (ISBN978-4-7972-2735-2)
参考書	和田仁孝・阿部昌樹[編](2016)『新入生のためのリーガル・トピック50』法律文化社 (ISBN 978-4589037138)
参考URLなど	司法制度改革推進本部HP (http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sihou/index.html) 裁判所HP (http://www.courts.go.jp/) 日本弁護士連合会HP (http://www.nichibenren.or.jp/)
その他	サブメジャーで、主に「地域公共政策」の科目を履修しようと考えている学生及び公務員を志望する学生は、できるだけ1年次に履修することが望ましい。